



▲福島取締役社長



日興企業株式会社
取締役社長

福島 和義

自分の将来の姿を描きながら ワーク・ライフ・バランスを保ってほしい

日興企業は、SMBC日興証券のグループ会社として1959年に設立され、グループ各社の利便性とコスト削減に寄与する事業を行っています。

2022年にSMBC日興証券から異動し、翌年社長に就任した福島さんは、現在社員のワーク・ライフ・バランスを重視した職場環境づくりを進めています。今回は、会社のことやご自身の健康のこと、社員のためのよりよい職場環境づくりなどについて、お話を伺いました。

インタビュー日 令和6年7月30日

——御社はSMBC日興証券とグループ会社全体にかかわる事業を行っているということですが、具体的な事業内容について教えてください。

弊社は、保険部、商事部、総務部の3つで業務を行っています。

保険部は、損害保険や生命保険など各種保険を取り扱う保険代理店として、グループ会社の役員、社員、退職者の皆さんへ最適な保険を提案しています。また、万一の事故や災害時には、皆さんの安心・安全のために迅速かつ円満な解決や保険金の請求などをトータルにサポートします。

商事部は、グループ各社のサポート部門として物品調達および各種管理業務等を行っています。物品調達では、文房具・事務用品やコピー用紙などのオフィスサプライ用品全般、販促用粗品、会社四季報、各種記念品などの調達を担当しており、メーカーや調達先と幅広く交流す

ることで、最新の商品情報を提供しています。管理業務では、グループ各社の総務部門のアウトソーシング窓口として、社有車、ETCカード、IDカード、自動販売機などの管理や手配を行うほか、iPhoneやiPad等の管理やモバイルサポートの窓口業務の受託等を行っています。

その他にも、ノベルティ商品の企画・提案・調達や福利厚生関連業務、各種帳票の手配など、グループ各社のニーズに合わせてさまざまなサービスを提供して利便性を高めるとともに、グループ各社の間接業務の負荷軽減・コスト削減に努めています。

総務部は、当社の経営管理、人事、経理、税務、システムなど会社全体にかかる業務を行っています。また事業部門のバックオフィスとして、支払い業務を行っています。

——福島社長は2022年にSMBC日興証券から異動してこられて以降、働きやすい職場環境づくりに取り組ま

れていると伺っていますが、どのようなことをされていますか。

弊社はグループ各社にとってなくてはならない、あらゆる業務を行っています。そのため労働時間の管理や在宅勤務の難しさが課題となっていました。

私が着任する前は、1人の社員が1つの業務を担当するというスタイルで、ほかの社員が代わりをできず属人化していたため、特定の人に業務が偏ることが多い状況でした。またそれに伴い、残業時間が増えて、一部体調を崩す社員も出ていました。2022年4月に着任してからは、こうした職場環境を改善すべく、業務を少しずつ平準化し、それまで行われていなかった人事異動を実施するようにしたことで、今は残業時間も減り、休みもしっかりと取れるようになってきています。

そして、できた余裕の時間を資格取得の勉強などの自己研鑽に使ってほしいと伝えています。人生100年時代を迎え、会社人生が終わってからも長い時間があるので、次の人生を充実させられるようなことを身につける時間として活用してほしいですね。最近では、自身の業務のスキルアップとして保険の資格やシステム関係の資格をとる人、秘書検定、漢字検定など興味のある資格に挑戦する人が増えてきているので、弊社では資格を取得した人に賞状をつくって渡しています。これでモチベーションが上がり、さらにいろいろなチャレンジにつながってくれたらと思っています。

——社員の皆さんのワーク・ライフ・バランスが整い、時間を有意義に使えるようになってきたんですね。では、社員の健康のために取り組んでいることがあれば教えてください。

健康診断や人間ドックは毎年きちんと受診してもらっています。なかなか特別なことはできていませんが、社員一人ひとりとちょっとしたコミュニケーションをとることで、変化に気づいてあげることが大事かなと思っています。

私を含めて、課題は「健康に対する意識の低さ」だと思っています。弊社では月1回全体会議を行い、その中で毎回数名の社員に1人1、2分ほど、「いい話」をしてもらっています。例えば、エレベーターを使わずに、7階まで階段で上っているという話を聞くと、やってみようかなと思う人も出てきます。いきなり「社員全員でフルマラソンをやるぞ」と言っても誰も参加してくれませんが、ちょっとしたヒントになる話が行動につながっていくこともあるので、会議の中で組織的にできることを考え、啓発していくことが大事かなと思っています。また、昨年の夏から衛生委員会を実施し、1カ月に1回産業医に来てもらって、喫煙に対する警告などの話をしてもらい、内容をまとめたものを社員の皆さんにも見ていただいています。

——福島社長ご自身は、健康維持のために続けていることはありますか。

20数年来、会社に行く前とお風呂上りに1日2回、必ず体重計に乗ることを習慣にしています。人間ドックで先生に50歳を過ぎたら体重に気をつけるよう言われたことがきっかけで、特にここ10年くらいは体重の維持には気をつけています。おかげでここ数十年、体重はほぼ変わっていません。

私はお酒が好きで、過去には仕事から飲む機会も多かったため、必ず週1日休肝日をとるようにしていました。現在、休肝日を1週間に連続して2日にする努力をしているところです。また、以前は1日に2～3箱吸うほどヘビースモーカーでしたが、十数年前にたばこをやめました。やめてからは目覚めが良くなり、体にとってはいいことだったと思います。

——最後に、仕事と健康、そして福島社長にとってのウェルネスについてお聞かせください。

「健康な体にしかない仕事は生まれません」というのが私のポリシーです。体調が悪ければ、無理をせずに休んでいただき、しっかり治してもらう。とにかく健康を第一に考えて生活を送り、仕事に取り組んでほしいと思います。

また、体の健康だけでなく心の健康も大事で、やはり重要なのはストレスを溜め込まないことです。週5日の限られた時間の中でできる仕事は自分にとって正しい仕事の量で、それを忠実に守っていれば仕事のストレスはないのではないかと思います。もちろん今日できることはきちんとやりますが、残業してまで今日中にやらなければならない仕事というのはそれほどありません。「できるまでやる」のではなく、「できないものはできない」と割り切って、仕事を翌日に回したり、他の人と分担したりする柔軟性を持つことで、精神的なプレッシャーは減っていくのではないのでしょうか。

社員の皆さんには、健康で、それぞれの責任感の中で適度な仕事をしっかりといただき、プライベートを充実させてほしい。健康、仕事、時間の良いバランスを社員一人ひとりが実現できる環境を、会社がつくっていかなければならないと思っています。そして、例えば親の介護をしている社員が介護休暇をきちんととることができ、無理なく働けるようにするなど、社員の状況を把握して、その状況に合った労働環境を整えていくことも必要だと考えています。

私が思うウェルネスとは、より良く生きようとする生活態度のことです。それは、ちゃんと朝ごはんを食べる、夜更かしをしない、はしご酒をしないなど、健康的な生活を送ることです。長い人生の中、今も大事ですが、ワーク・ライフ・バランスを保ち、将来の自分をどう描くかが、今後は重要になってくるのではないかと思います。

——福島社長、本日はありがとうございました。